

平成26年度第2回東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会  
議 事 概 要

1. 開催日時： 平成27年3月23日（月） 16：30～17：30
2. 開催場所： 東北地方整備局 大会議室
3. 出席委員： 委員長 浦井 義光            弁護士  
                 委 員 内田 貴和            公認会計士・税理士  
                 委 員 飛田 善雄            東北学院大学教授
4. 議 事  
    (1) 平成27年度東北地方整備局コンプライアンス推進計画（案）について  
    (2) 意見交換
5. 各委員からの意見等
  - ◆Q1 コンプライアンス・インストラクター制度について、今後も活用方法等の充実を図っていただきたい。この制度をうまく活用することによって職場の風通しが良くなり、さらなるコンプライアンス推進が図られることを期待している。
  - ◆A1 今後ともコンプライアンス・インストラクターを養成していくとともに、各事務所においてインストラクターが中心となってコンプライアンスの推進が図られるよう取り組んで参りたい。
  - ◆Q2 これまでの推進計画に対する活動とその効果等について、担当者の方はどのような分析をしているか。
  - ◆A2 毎月のコンプライアンス推進本部会議の場で2事務所を抽出し、事務所長から取り組みの報告を受けているが、ある事務所ではコンプライアンス・インストラクターが進行役となり、ワールドカフェ方式のグループ討議を行うなど、各事務所とも様々な工夫をして取り組んでいる。また、年2回のコンプライアンス・ミーティングについても、事務所の意見・要望も取り入れながら確実に行ってきており、成果は上がっているものと思われる。
  - ◆Q3 コンプライアンス推進計画の「事業者等との適切な対応」という部分のうち、事業者等の「等」の部分は具体的にどのようなものを想定しているか。
  - ◆A3 公共工事等に係る事業者、法人、共同企業体、組合、事業を行う個人など、我々の公共事業を受注する立場にあるような団体を想定している。

- ◆Q4 コンプライアンスの最終的な目標は、職員がお互いにチェックし合える信頼関係を作ることかと思うが如何か。
- ◆A4 本局及び事務所においては、幹部を集めた会議や各課単位で部下職員を集めた会議などでコンプライアンス意識の徹底を図るとともに、組織内の風通しを良くするという面においても様々な機会を捉えて啓発を図っている。

## 6. 整備局からの発言

先ほどお話しいただいた風通しの良い職場を作っていくためには、上司や横の関係も含めて、何でも言い合える雰囲気を上の方から順番に示していくことが重要だと思っている。

コンプライアンスの浸透は、組織を守るためのものではなく、職員自身を守ることが一番の目的である。仕事の失敗であれば組織でカバーできるが、コンプライアンスに関しては組織でカバーできないという危機感を共有することで本気になってくれると考える。

これまで先生方からいただいたコンプライアンス推進計画等に対するご意見等を踏まえて、今後とも職員のコンプライアンス意識を一層高めるべく、取り組んで参りたいと考えているので、今後ともご指導の程よろしくお願ひしたい。